

第43回卒業式 86名の巣立ちです (前号続き)



第53号

校長 久高利美子



保護者代表石垣さんによる卒業生へのエール



【答辞 卒業生代表 下地 隼】

私たちが慣れ親しんできた名護城の山々が葉桜に変わり、季節の移り変わりを知らせています。先生方、保護者の皆様、お忙しい中東江中四三期生の卒業式に足を運んで頂き、卒業生一同感謝しています。本当にありがとうございます。真新しい制服に身を包み、不安と期待を胸に、東江中学校の門をくぐったあの日から、早3年という月日がたちました。本日、この佳き日に私たち四三期生八六名は自らの手で夢をつかむため、この東江中学校を旅立ちます。卒業式を迎えた今、私の心の中には数え切れないぐらいの思い出が昨日のように次々とよみがえってきます。一年生の頃は、新しい環境、初めての学校行事等でわくわくしていたことを覚えています。時には羽目を外しすぎて、先生方や先輩方に怒られることもありましたが、それ以上に支えられることが多く、得るものがたくさんありました。そんな私たちも2年生になり、先輩と呼ばれるようになり、はじめの頃は少し違和感がありました。しかし、次第に先輩としての自覚がついてきました。そんな中で、一番思い出に残っているのは、関西で友と一緒に過ごした2泊3日の修学旅行です。奈良や京都を巡り、日本の文化や歴史を学びながら、友と協力することの大切さを実感しました。特に3日目のこの中には、様々なアクティビティに乗り、大いに楽しむことができました。2年生では一生の思い出を作ることができ、友情をさらに深めた年となりました。3年生ではどの場面においても「中学校生活最後」という言葉が、私たちに2度と訪れないこの時間を大切にしたいという思いを強くさせました。その

思いが強くなることに比例して、時が過ぎる早さはさらに加速していくばかりでした。義務教育最後の運動会では、「友と築く新時代・今年が1番アツい夏」をテーマに、夏の厳しい暑さの中、練習から生徒会執行部を中心に頑張ってきました。当日はどの演技も見応えがあり、見ている人々に笑顔と感動を与えることができたと思います。運動会終了後には、一人一人がやりきった達成感に満ちた笑顔になっていたことを覚えています。また、合唱コンクールでは、放課後や音楽の授業の時間を使って練習し、各クラスの団結力を深めることができました。合唱コンクール後の不退転祭では、様々なジャンルの出演者が舞台発表をしてくれました。出演者の演技に圧倒され、笑いあり、感動ありの学校行事となり、とても盛り上がることができました。

長い人で、出会って十五年、いつも一緒にいることが当たり前だった仲間。私たちはこんなにも貴重で宝物のような時間を過ごすことができ、幸せ者だと実感しています。そんな仲間と切磋琢磨したり、笑い合ったりする当たり前の時間が今日で最後だと思ふことも寂しく思います。私たちは今日を節目にそれぞれの道へと歩き出しますが、これから私たちが仲間であることは変わりありません。今まで本当にありがとうございました。在校生のみなさん、これからみなさんが東江中を真筆させていく番です。悩み事や様々な壁にぶつかっていくと思います。そんなときも仲間と協力することを忘れず、いつでも感謝の気持ち